

住宅建築賞入賞作品展

2016年

7月20日(水) - 8月10日(水)

入賞レセプション／
オープニングパーティー

申込先着順 定員:100名	入場無料
---------------	------

7月20日(水)

[入賞レセプション]

16:30～18:20／AGC studio(2階)

[オープニングパーティー]

18:30～20:00／AGC studio(2階)

※入賞レセプションは審査委員による入賞作品講評、
および入賞者とのディスカッションになります。

[住宅建築賞 審査委員]

委員長:西沢立衛

委 員:乾久美子／小嶋一浩／
妹島和世／藤本壮介

[協賛]

株式会社 建築資料研究社 日建学院

株式会社 総合資格

[協力]

旭硝子 株式会社

工学院大学 木下庸子研究室

[後援予定]

公益社団法人 日本建築士会連合会

一般社団法人 東京都建築士事務所協会

一般社団法人 日本建築学会 関東支部

公益社団法人 日本建築家協会 関東甲信越支部

株式会社 新建築社

株式会社 エクスナレッジ

[主催] [申し込みお問合せ先]

一般社団法人 東京建築士会

東京都中央区晴海 1-8-12オフィスタワーZ棟 4F

tel.03-3536-7711 fax.03-3536-7712

e-mail:jks@tokyokenchikushikai.or.jp

www.tokyokenchikushikai.or.jp



〒104-0031 東京都中央区京橋2-5-18 京橋創生館1・2階
tel.03-5524-5511 www.agcstudio.jp

住宅建築賞 2016 入賞作品展

住宅建築賞 入賞者

- 佐藤美輝
- 加藤亜矢子 + 村山徹
- 伊藤博之
- 伊藤暁
- 木下昌大 + 石黒大輔
- 安原幹 + 日野雅司 + 桒澤麻利

2016.
7.20_{wed} - 8.10_{wed}

[日曜・月曜・祝日休館]

10:00～18:00
入場無料

AGC studio

| 主催 | 一般社団法人 東京建築士会

住宅建築賞 入賞作品

2016年 | 一般社団法人 東京建築士会

●応募主旨

[委員長 西沢 立衛]

【新しい時代の住宅】

住宅は私たちの生活にとって、もっとも身近な空間の一つです。そこには、私たちが生きる上での価値観というものが表れます。例えば、建築家が寝室を設計するとき、どんな寝室がいいかを考えながら寝室を設計しますので、その結果できた寝室は、「こう寝るのはどうか」ということを、空間的に言うことになります。他にもそういうことはいっぱいあって、例えば入浴はこうとか、庭はこういう庭とか、私たちの考え方、価値観が空間的に示されます。そういうものの総体として、住宅というのはその全体で、「こう暮らすとどうか」ということを、空間的に言うことになります。

時代が変われば、機能性や利便性も変わり、快適性も変わります。価値観が変わってゆきます。いま住宅を設計したら、それはかつてとはなにか違う、新しい時代の萌芽のようなものを感じさせる住まいになるのではないのでしょうか。新しい時代の息吹を感じさせる建築は、新しい時代を生きる人々の価値観から出てくるのではないのでしょうか。なにが快適とか、何が要らないとか、何が美しいとか、そういういろんなことが渾然一体となって住まいとなり、生き方となって、新しい時代を切り開く新しい精神を世に示してゆくのではないのでしょうか。

最後に、今年(2016年)と去年(2015年)の住宅建築賞課題「新しい時代の住宅」は、一昨年(2014年)の課題と同じものです。審査委員構成は去年と同じですが、審査方針は変えずに審査に臨むものとなりました。

●応募要項

- (1) 上記の主旨にかなうもの
- (2) 一戸建住宅、集合住宅及び併用住宅等とする(大幅な増改築、公共の建築も含む)
- (3) 原則として作品は最近3年以内に竣工したもの
- (4) 雑誌等に発表したものでもよい
- (5) 建築物の所在地は1都3県(東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県)とする
- (6) 応募の点数は自由とする
- (7) 審査委員の関与した作品は応募できない

●応募要件

応募資格	応募作品を設計した建築士資格を有する者(法人組織の場合は設計担当した建築士) 登録料 本会 正会員:無料(申込時に入会した方を含む) 他県 建築士会 正会員:1点につき5,000円 会員外:1点につき10,000円 (作品を郵送する場合、登録料は現金書留にてお送りください)
提出期限	2016年1月29日(金)(郵送の場合は、1月29日(金)の消印があり審査に間に合うよう到着したものは有効)
提出先	一般社団法人東京建築士会 住宅建築賞係 〒104-6204 中央区晴海1-8-12オフィスタワーZ棟4階 TEL 03-3536-7711
提出資料	申込書及び本会指定A2版台紙 ※第一次審査を通過した場合、建築士免許コピー及び検査済証のコピー(確認申請不要物件は、不要理由を明記した文章)の提出を求めることがある 図面及び完成写真数点(内・外観)、平面図、立面図、断面図、配置図、設計主旨(300字以内)等をA2版台紙一面(本会指定の用紙・原則として縦づかい、パネル化しない)におさめること。なお、写真の大きさ図面等の縮尺及びレイアウトは自由とする。プレゼンテーションの表現自体は、審査の対象としない。 申込書及び本会指定A2版台紙は本会事務局において頒布します。郵送希望の場合は、宅配便着払いにてお送りできます。その場合、①件名を住宅建築賞申込希望、②氏名、③送付先、④連絡先、⑤会員番号等を明記のうえ、E-mailまたはFAXにてご請求ください。なお、事務処理の迅速化を図るため、宅配便着払い了承の旨お書き添えください。 (E-mail:jks@tokyokenchikushikai.or.jp FAX:03-3536-7712)

●審査委員

委員長	西沢立衛
委員	乾久美子／小嶋一浩／妹島和世／藤本壮介

●審査

- 1 | 第1次審査(書類審査)に通過したものは原則として現地審査する。
- 2 | 入賞発表 2016年4月中旬
 - ・審査結果については、応募者に直接通知する
 - ・応募者は審査結果について異議を申し立てることができない

表彰及び賞金	1	入賞者(5点以内)に対し賞状(盾)及び賞金を贈り、入賞者の中から特に優れたものには金賞を贈る。 <table><tr><td>住宅建築賞</td><td>70,000円</td><td>住宅建築賞金賞</td><td>150,000円</td></tr></table>	住宅建築賞	70,000円	住宅建築賞金賞	150,000円	応募図面の取扱	1	応募図面の公表及び出版の権利は主催者が保有する。
	住宅建築賞	70,000円	住宅建築賞金賞	150,000円					
	2	建築主、施工者には入賞を記念する盾を贈呈する。	2	入賞作品は本会ホームページ及び会報等に掲載する。また、入賞作品展(公開展示:7月開催)の予定がある。					
	3	表彰式:総会の席上(6月上旬予定)	3	入賞作のうち、東京都内に建築されたものの中から1点を「関東甲信越建築士会ブロック会」の優良建築物表彰候補作品として、推薦することがある。					
		4	応募作品は返却しない。						

●審査結果(2016年 住宅建築賞)

応募点数 66点 住宅建築賞入賞 5点 奨励賞 1点

住宅建築賞 (受付順)	living journey (東京都)	○設計者:佐藤美輝(佐藤事務所) ○建築主:上西哲路 ○施工者:株式会社前澤工務店(建物構造:鉄筋コンクリート造)
	ペインターハウス (神奈川県)	○設計者:加藤亜矢子+村山徹(ムトカ建築事務所) ○建築主:山本桂輔+山本康子 ○施工者:株式会社ジョー・コーポレーション(建物構造:木造)
	DECKS (東京都)	○設計者:伊藤博之(伊藤博之建築設計事務所) ○建築主:合同会社m&m ○施工者:サンユー建設株式会社(建物構造:鉄筋コンクリート造)
	横浜の住宅 (神奈川県)	○設計者:伊藤暁(伊藤暁建築設計事務所) ○建築主:伊藤ちひろ ○施工者:株式会社栄港建設(建物構造:木造)
	SHIRO building (東京都)	○設計者:木下昌大+石黒大輔(KINO architects) ○建築主:利根川均 ○施工者:大出産業株式会社(建物構造:鉄骨造)
奨励賞	tetto (神奈川県)	○設計者:安原幹+日野雅司+板澤麻利(SALHAUS) ○建築主:宮野敏男 ○施工者:大同工業株式会社(建物構造:在来木造一部鉄筋コンクリート造)

●参考資料

1次審査結果 2016年2月17日(水)実施。応募作品66点より、1人5点〜6点を投票(審査委員5名)投票した作品番号 (計30点)

審査委員	作品番号										合計
西沢	5	20	32	42	50	—	—	—	—	—	5点
乾	17	20	29	32	40	41	44	54	58	60	10点
小嶋	5	20	32	42	54	58	64	—	—	—	7点
妹島	5	32	39	41	52	—	—	—	—	—	5点
藤本	37	42	58	—	—	—	—	—	—	—	3点

投票結果(下記17点より、議論) (計17点)

獲得票数	作品番号	合計
4票	32	1点
3票	5、20、42、58	4点
2票	41、54	2点
1票	17、29、37、39、40、44、50、52、60、64	10点

5 32 41 42 52 58 左記6点を1次審査通過とし、2次(現地)審査対象とした。
2次(現地)審査は、2月28日(日)に実施した。



1次審査風景(上・下)

「新しい時代の住宅」というテーマでの住宅建築賞は、今年で四年目となった。

今年の応募総数は計66点と、例年に比べて若干の減少方向であった。2月17日に応募図面資料による1次審査があり、投票と議論を経て、計6作品を現地審査対象作品に特定し、一週間後の2月28日に全作品の現地審査を行った。1次審査と2次の現地審査とで一週間ほどの時間差がなく、現地審査対象作品についてはあまりに急な訪問依頼となってしまったことを、ここであらためてお詫び申し上げるとともに、急な依頼にも関わらずまた休日にも関わらず、快く受け入れてくださった建主・住まい手の皆様、現地立会いのもと説明してくださった設計事務所の皆様には、深く感謝する次第である。

さて、現地審査の当日はよく晴れて、暖かく春らしい一日となった。今回は、応募できる作品の範囲を東京・千葉・神奈川・埼玉と建築士会のほうで変更したようで、移動範囲が小さくなった。そのことと、天候にも恵まれたことも合わせて、よい条件下での審査をすることができた。現地審査を通して、今年もまた審査委員間での意見は分かれたが、しかし、昨年ほどの対立はなかったように思う。最終的には、5作品を住宅建築賞とし、1作品を奨励賞という結果に、全員が同意した。

全体の印象としては、どれも力作で、見応えがあったが、逆に突出した作品がないともいえる、僅差の審査となった。佐藤美輝さんの「living journey」は、狭小地にも関わらず、コンクリートでしっかりと作っていて、そのシンプルさに好感を感じた。とんがり帽子の形状から生まれる屋根裏部屋や、とんがり帽子の影となる離れの屋上庭園などには、この形ならではの面白さがあった。加藤亜矢子さんと村山徹さんの「ペインターハウス」は、建築の立ち方、その装飾性、お施主さんとの協同などが印象的で、また、低予算短期間住宅という社会的課題に挑む姿勢も共感を得、審査委員全員が好感を感じた。一般解を目指す論理性と、かわいい家を目指す趣味性とが、階級闘争をしているような、そうとう独特な作品だったが、作り方の一貫性が怪しかったとしても家としての存在感にはなお魅力を感じた。伊藤博之さんの「DECKS」は、都心における若者向け賃貸集合住宅の提案で、分棟形式を採用し、また基準階平面に囚われない多様な平面計画とすることで、集合住宅の市場的画一性とは一線を画すものとなった。他方で、複雑で多様な室内の空間構成と、四棟分棟の分棟配置とが、十分に統合されていないように感じられた。伊藤暁さんの「横浜の住宅」は、崖地に立つ個人住宅で、建築家の自邸でもある。今回の応募作の中では、「ペインターハウス」と並んでもっとも審査委員の評価を受けた。どこもうまくできていて、また楽しい住まいになっていて、建築家としての並々ならぬ力量を感じた。他方で、斜面地のランドスケープがテーマである割には、斜面地ならではの言語的特異性があまり感じられず、むしろ平地でもそのまま建てられそうな住宅にも見えた。それほど洗練されて建っていて、むしろ逆に、隣の家々がやっているように、崖に張り付いてでもここに住むぞというような逞しさと激しさがもし空間になっていたら、まったく違った評価になっていたのではないかな。木下昌大さんと石黒大輔さんの「SHIRO building」は、派手な身振りのある建築ではないが、空間構成としても、街との関係という意味でも、うまくまとっており、設計者の力量を感じるものだった。

安原幹さん、日野雅司さん、栃澤麻利さんのSALHAUSによる「tetto」は、今回の現地審査では残念ながら、室内を見ることはできなかったが、恵まれた敷地条件と余裕のある建ぺい率、中庭の共用空間が魅力だった。他方で、長屋が対面する対面型空間配置によって周辺に背を向ける形になり、軒が内側に向かって開かれて、その内向きの空間構成は、里山などの豊かな周辺環境から切り離されて立っているようにも感じられた。土間や軒などの建築言語が記号化しつつあることも、多少気になった。



作品講評

2016年 住宅建築賞 作品講評

〔 講評者 〕

藤本 壮介

作品 living journey

設計者 佐藤美輝(佐藤事務所)

都心の住宅密集地にたくさんの個室という難しい条件にたいして、分棟と屋上庭園を巧みに組み合わせて豊かな住環境を作り出す試みである。室内はすべてRC打ち放し仕上げとすることで、庭と室内を等価に扱い、テラスも部屋の一部であり、部屋もテラスの一部であるような感覚を生み出している。各階で開口部の扱いや必然的に現れる屋根勾配の変化、また棟ごとに異なる階段を配置するなどして、各個室に自然な変化が生まれるように工夫されている。ただ、全体はやはりかなりストイックな印象が強く感じられ、少し硬いのではないかと思われた。各階でもう少し楽しげな変化があっても良かったのではないだろうか。ボリュームの高さ関係で、屋上の庭に朝の日差しが当たらず、また中庭への日差しもかなり遮られている配置計画になっているのが、ちょっともったいない気がした。



〔 講評者 〕

西沢 立衛

作品 ペインターハウス

設計者 加藤亜矢子 + 村山徹(ムトカ建築事務所)

アーティストであるお施主さんと建築家が一体となって作り上げた、低予算短期間住宅である。今回の第1次審査で、もっとも多くの審査委員の注目を集めた作品であり、現地審査においても、皆が好感を感じた作品のひとつである。低予算短期間住宅全般への解答としたいという、社会的一般解を目指す野心がこの建築設計の動力の一つになっているところに、魅力を感じた。在来工法による極めて簡素でそっけない作りでありながら、楽しく優しく素敵な、等身大の住まいになっていて、同じくそっけない建築配置と外観も愛らしく、この作品のコンセプトがこういうタイプの街にもよく合うことが示された。一般解たりえようという社会的建築言語と、センスと私的ルールで作り上げて行く趣味的言語世界とが、恣意的に混ざり合っている所は、審査委員の中では意見が分かれた。



〔 講評者 〕

乾 久美子

作品 DECKS

設計者 伊藤博之(伊藤博之建築設計事務所)

分棟一連結を併用すること、垂直積み上げでないメゾネット(断面形状から審査委員同士でZ型とよぶことにした)、中庭、住戸内での小さなスキップフロアなど、集合住宅を構成するための技術をふんだんに盛り込み、眺めや日当りのよさ、反対に日当りの悪さといった各ユニットの魅力と弱点が、こまやかでローカルな操作と共に補われていた。各ユニットがおだやかで快適そうな住環境が獲得されており、住民の方々もそれを楽しんでおられる様子が伺えた。この条件の中で集合住宅としてのパフォーマンスを最大化しようとする作者の意欲を感じた。また、応募図面に書かれている「選択肢の組み合わせ」「ではない」集合住宅のあり方を考えようとしたことも十分に伝わってき、ローカルな微調整の積み上げで全体をつくることの魅力を感じた。そうした個別の努力に対する評価があったものの、一般性という意味で弱いのではないかという意見が多かった。



作品 横浜の住宅

設計者 伊藤暁（伊藤暁建築設計事務所）

〔講評者〕

小嶋 一浩

「ランドスケープの一部となる建築」と題された主旨文がエントリーシートに付されていた。急傾斜地が住宅地開発されて木造戸建てが立ち並ぶ、横浜によくある風景。北側斜面で眺望を確保するために流通材の寸法4m目一杯を使った1階の上にリビングスペースが載る。絶妙な高さの中2階の子供のスペースを介して、基本的に1室空間の室内の架構はブレースを含めて剥き出しである。広告膜を使った白い壁面が、シームレスに縦方向に空間を上手く引き延ばしている。一見ざっくりしているようでいて、とても緻密に計画された空間であるが、その緻密さが鼻につかないおおらかさが気持ちいい。太い手すりの鉄骨階段や外壁から持ちだされたバルコニー・横葺きの鋼板外壁は、斜面住宅地を形成する要素からの転写であるという。さて、「ランドスケープの一部となる」という時に、内部の空間が持つ開放感がそのまま周辺へと、もっとつながっていったらどんなになるかと想像するのは、欲張りすぎだろうか？



作品 SHIRO building

設計者 木下昌大 + 石黒大輔（KINO architects）

〔講評者〕

妹島 和世

都心の商業地から住宅地に切り替わる角地に立っている、3階建ての堂々とした、店舗付き住宅である。堂々としているが、威圧感がない。都心の商業地と住宅地が混じり合って作られる環境にとってもびったりくるたたずまいだと思う。斜線を避けるために天空率から形態を決定しているという。そのために4つの角が切り落とされ、テラスとして計画されている。天空率というのは、周りの家にある一定以上の影を落とさないようにするものだが、ここではその結果、天空率というものが説得力があると思わせる形態が導き出されていると思う。そして、将来いろいろな使い方が生まれることが想定されているため、いい意味でルーズな平面が作られている。構造計画やディテールまで丁寧に考えられながら、外観も平面もある意味でできとうである。それに私としては好感を持ったし、可能性を感じた。何か真面目で、そして世の中に開かれた計画であると感じた。ただ同時にもう少しやれることがあるのではという他の審査委員の言葉に、そうかもしれないと思った。考え続けたい問題である。



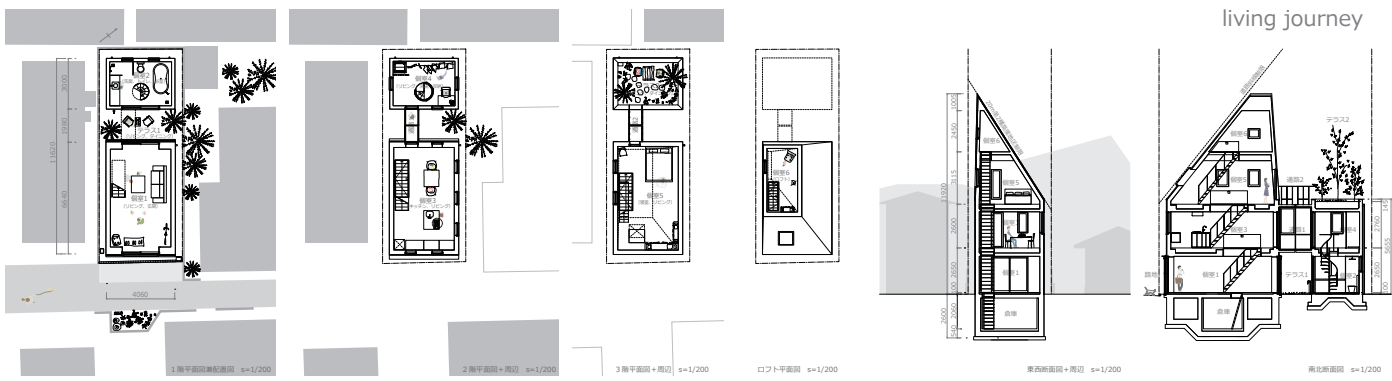
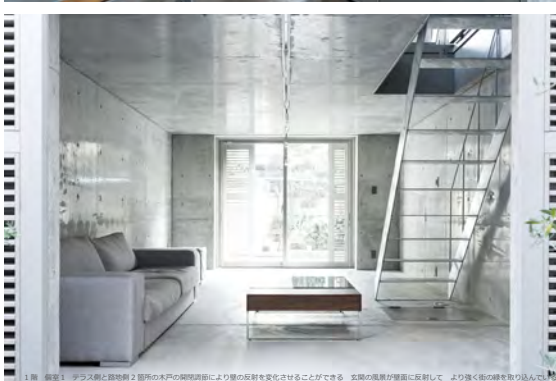
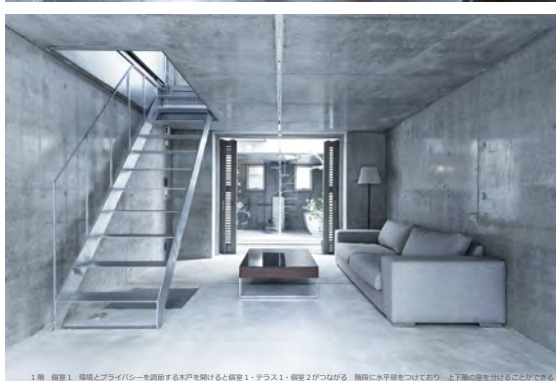
作品 tetto

設計者 安原幹 + 日野雅司 + 栃澤麻利（SALHAUS）

〔講評者〕

乾 久美子

非常に魅力的な敷地である。都市近郊農家の営みがわずかではあるがいまだに残り、作ることと住まうことがオーバーラップされた風景がひろがっていた。本作品はそのことを前提に組み立てられており、土間や作業ヤード、集会所などをふんだんに盛り込んで、居住者の外での活動を支援するようになっている。またオーナーと共に、居住者に裏の畑での活動やコミュニティの形成を支援するようなプログラムを提供しているようだ。惜しいと感じたのは、そうした企画と建築の形式がマッチしていないように感じられたことだ。敷地内通路に対して全住戸の正面、土間、ヤードを強制的に向けることで、逆に、住民の外での活動を抑制してしまっているのではないかという意見が多く出た。また、1階の、平面計画における北側の評価の仕方や、周辺への視線の抜けがないことなどに疑問が呈された。市街化調整区域での建設という貴重さ、ポテンシャルがもうすこし生きるあり方があったのではないかと意見もでた。



敷地は、都心の住宅密集地域にある。建主の若い夫婦二人は、土に繋れる屋と、将来家族が増えることを考え多めの個室を希望していたので、屋と個室をコンセプトに計画している。2つの屋を、日当たりのよい屋上と敷地中央におき、外壁を各室の間仕切りと考えて、室を屋を挟み南北に接することで垂直と水平の関係性を持つ配置計画とした。また、躯体をRC造とし、木密地域の平癒化対策と共に、打放しの表面の柔らかな反射を利用した空間の計画をした。構造延長を確保し、隣接する室や周辺環境にあわせて、開口を横並び・対面配置することで、床・壁・天井、開口自体に風量を反響反射させる。これが隣接する空間の光や人の動き、風量を視覚的に増幅させ、空間に広がりや繋がりを与えている。変化する空間にあわせて様々なくらしができるように、敷地全体を屋間として仕立てている。日々刻々表情が移り変わる空間にあわせて居心地のよい場所に移動する際を、建主は建物を持ってながら楽しんでいる。



ペインターハウス

アーティストとつくる明るい家

アーティストとその家族が住まうアトリエ併設住宅である。設計期間 2 ヶ月、工事期間 3 ヶ月、建物予算 1000 万円台という建売住宅並みの厳しい条件であった。

このような低予算・短工期という条件は決して特殊なケースではなく、若い家族のリアルな要求である。社会においてもこの層は厚い。ならばこの層に対し、ひとつの解答を出そうと思った。

寸法を慎重に決めたとてもシンプルな構造体に、サイディングなどの建売住宅で使われている材料や、構造や下地の規格材など現場入手が容易な材料で仕上げていった。ただ、それらを少しだけユニークなディテールで納めた。そして、アーティストである建主が、家具をつくり、壁や天井に鮮やかに色を入れていった。

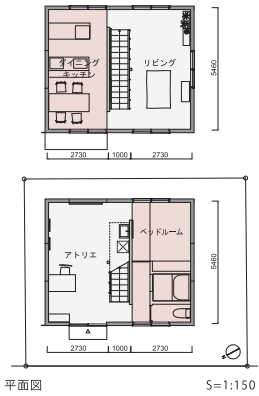
建売住宅と変わらない工法や材料を用いながらも、もっと建築は豊かになれる。この住宅は、クライアントの個性や場所性に無頓着な量産型住宅のオルタナティブである。



敷地周辺図

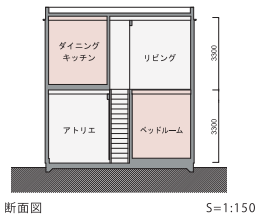
S=1:5000

相模原市の住宅地に建つ、グリッド状に区画された起伏のないフラットな土地に、様々な年代の量産型住宅が立ち並ぶ成熟した郊外住宅地である。



平面図

S=1:150



断面図

S=1:150

910 モジュールで合理的に耐力壁を配置した木造軸組。長方形平面の中央に階段を配し、その片側に壁を設け、その平面を 1 階と 2 階でくりと反転し、上下でねじれをもっている。

主要用途：アトリエ併設住宅
構造階数：木造 2 階建
敷地面積：82.65 m²
建築面積：35.28 m²
延床面積：70.56 m²
設計期間：2014.3 ~ 2014.4 (2 ヶ月)
工事期間：2014.6 ~ 2014.9 (3 ヶ月)
家族構成：夫婦 + 子供 1 人



2 階内観。左にダイニングゾーン、右にリビングを見る。



1 階内観。左にアトリエ、右にバスルーム、奥にベッドルームを見る。



西側外観。外壁はサイディング、陸屋根は FRP 防水をバラベツト外側まで巻き込んでいる。



2 階リビング。壁は合板を QS で塗り分け、カーペットは市木まで立ち上げている。



ダイニングを見る。窓の開口はガラスのサイズでくり抜いている。

1 階アトリエは街と繋がっている。



道路から見る。中庭には、既存の井戸の水を利用した水盤がある。



10F から中庭を見る。眺望の目地が光のグラデーションを顕在化する。



道路反対側より見る。



10F 階段に面したためリブコニーを設けて配膳を作っている。



10F 奥の光が中庭から、右手の明るい部分は様の階間にある。



屋上 1 つは井戸。それ以外は専用のテラスになっている。



10F から正面に中庭を見る。左手のアリッジが入口。



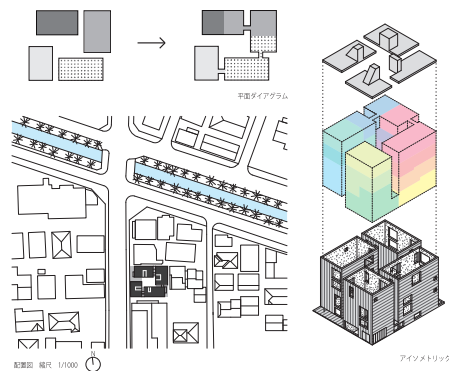
4-5F オフィスやアトリエとしての利用にも適し、左手の中庭からも出入りが可能。

DECKS

風車状の配置は、各住戸に対して、中庭と周囲の空地から、明るさと視線の抜けを確保でき、棟の隙間から、視線を遮りながら光と風を入れられる。ただ、その輪郭の中でも、方位や周囲の状況によって、各部位の明るさや眺望、騒音等の状況は異なるため、可能な限り柔軟に、個別に調整するべきと考えた。

結果、メゾネットや棟をまたがった住宅など、互いに戸境を押し合いながら、かなり複雑な中身となった。

選択肢の組み合わせから生まれる住戸のパリエティではなく、影響を与え合って建つ、まちなかの戸建住宅のように、互いに他律的であると同時に自律的でもあるような個の集合を、できる限り計画の自由度と精度を上げること、作ろうとした。



敷地面積 1/1000

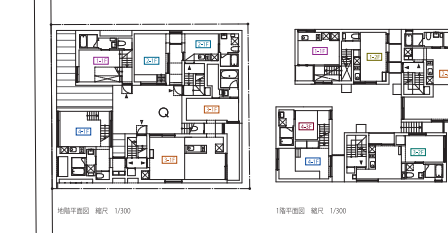
アイメトリック



3階平面図 縮尺 1/150



新築図 縮尺 1/150



1階平面図 縮尺 1/300



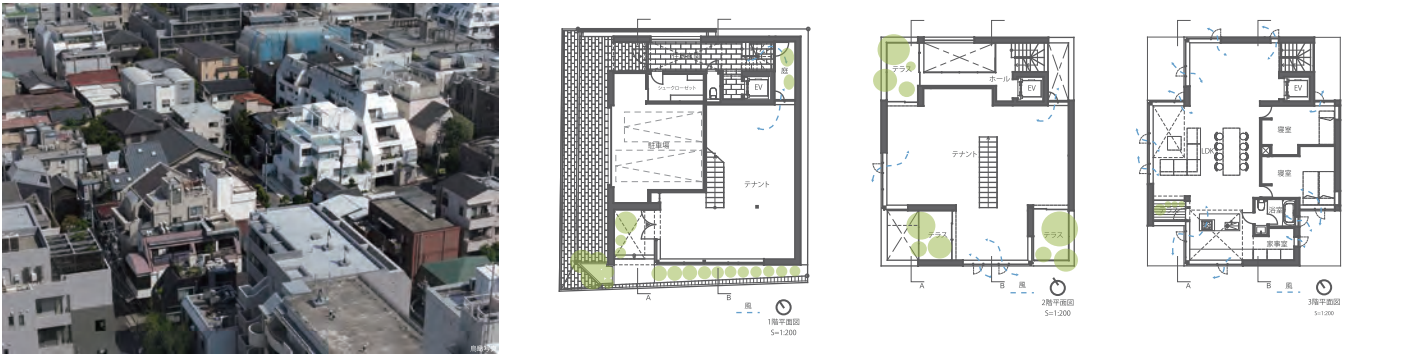
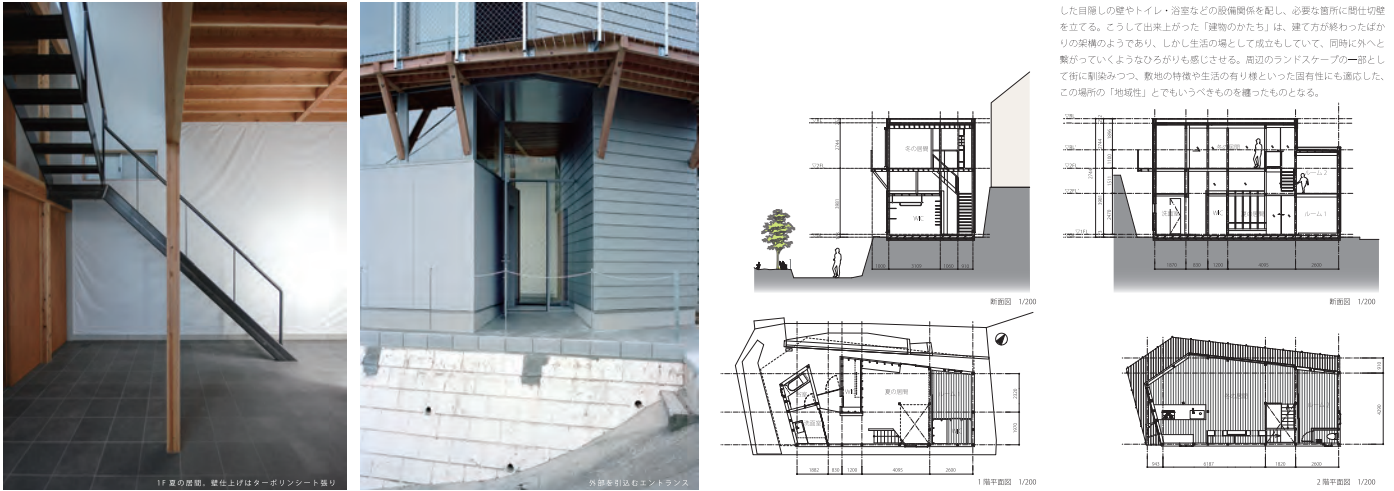
2階平面図 縮尺 1/300



3階平面図 縮尺 1/300



3階平面図 縮尺 1/300



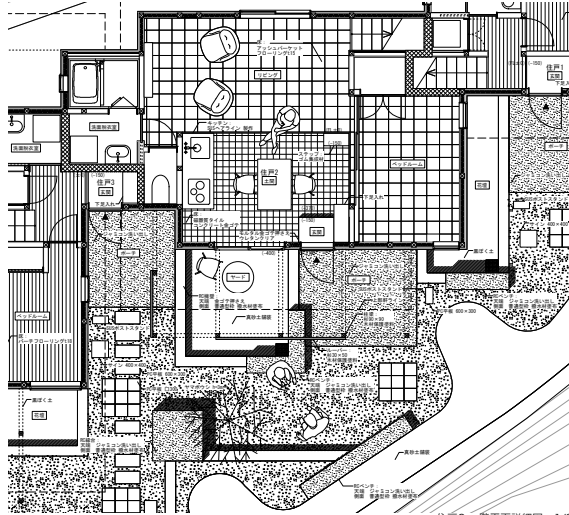


①大きく張り出した軒の下で室内/屋外、専有部/共用部が互いに混じり合う

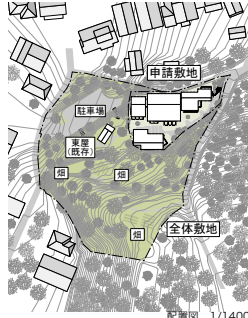
④住戸6二階 木造屋根が内外に渡って連続する

tetto

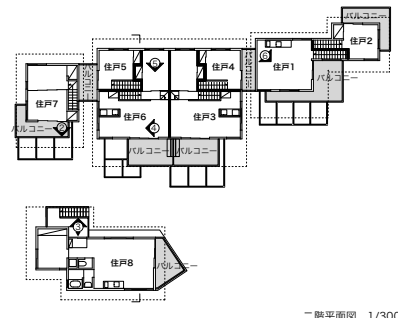
郊外農地に残されていた空家を建て替え、郊外ならではの
おらかな集住体をつくる試みである。座下の1階部分をR
Cでつくりオーナーの別荘兼
集会所とし、その他の部分は
長屋形式の木造賃貸住戸とし
た。8世帯の住人は里山や畑
といった周辺環境全体を共有
して生活できる。住戸単位と
はずらした小さなボリューム
で建築を構成することで、住
戸と外部環境との接触面を増
やし、ルーフトラス、専有ヤ
ードといった屋外の生活スベ
ースをつくり出した。軒の出
や、床のレベル差、独立フレ
ームなどがつくる領域を重ね
合わせて場所をつくり、室内
と屋外、専有部と共用部が、
互いに混じり合いながら集ま
っている状態を目指した。



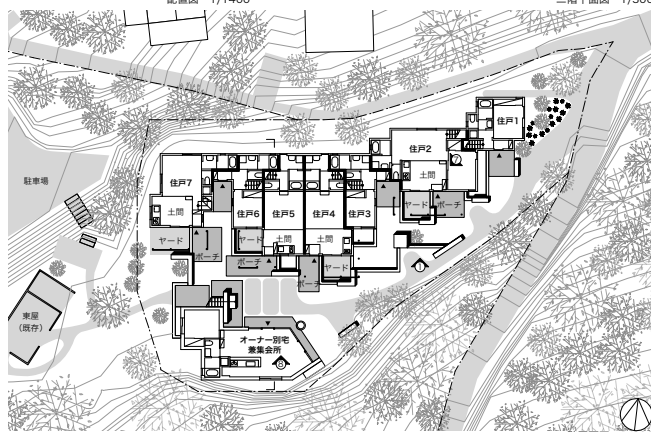
住戸2一階平面詳細図 1/80



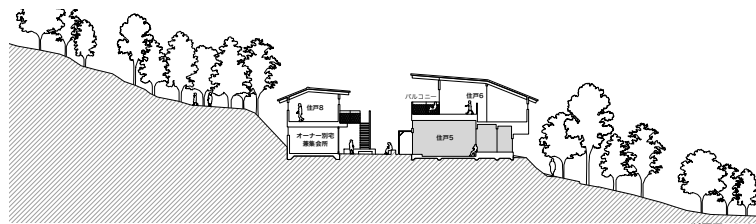
配置図 1/1400



二階平面図 1/300



一階平面図 1/300



断面図 1/300



⑤住戸6 寝室からリビング越しに屋外を見る



⑥住戸1 様々な方向の景色を切り取る窓



⑦住戸2一階 土間とヤードが連続する



⑧集会所から各住戸の屋外スペースがパノラマのように見える

住宅建築賞受賞者プロフィール

●living journey



佐藤 美輝

Yoshiteru Sato

1975年：東京都生まれ
2000年：横浜国立大学工学部建設学科建築学コース卒業
2003年：横浜国立大学大学院工学府社会空間システム学修士
2007年：佐藤事務所設立

●ペインターハウス



加藤 亜矢子

Ayako Kato

1977年：神奈川県生まれ
2004年：大阪市立大学大学院生活科学研究科生活科学専攻前期博士課程修了
2004～2008年：山本理顕設計工場
2010年：ムトカ建築事務所共同設立
現在、大阪市立大学非常勤講師



村山 徹

Toru Murayama

1978年：大阪府生まれ
2004年：神戸芸術工科大学大学院芸術工学研究科総合デザイン専攻修士課程修了
2004～2012年：青木淳建築計画事務所
2010年：ムトカ建築事務所共同設立

●DECKS



伊藤 博之

Hiroyuki Ito

1970年：埼玉県生まれ
1993年：東京大学工学部建築学科卒業
1995年：東京大学大学院修士課程修了
1995～1998年：日建設勤務
1998年：O.F.D.A.共同設立
1999年：伊藤博之建築設計事務所設立
2003～2010年：東京理科大学非常勤講師
2008～2013年：東京電機大学非常勤講師
現在、お茶の水女子大学、慶應義塾大学、日本大学、京都造形大学非常勤講師

●横浜の住宅



伊藤 暁

Satoru Ito

1976年：東京都生まれ
2000年：横浜国立大学工学部建設学科卒業
2002年：横浜国立大学大学院工学研究科計画建設学専攻修了
2002～2006年：aat+ヨコシマコト建築設計事務所
2007年：伊藤暁建築設計事務所設立
現在、東洋大学、日本大学、東京都市大学、明治大学非常勤講師

●SHIRO building



木下 昌大

Masahiro Kinoshita

1978年：滋賀県生まれ
2001年：京都工芸繊維大学卒業
2003年：京都工芸繊維大学大学院修了
2003年：C+A
2005年：小泉アトリエ
2007年：KINO architects設立
2014年：京都工芸繊維大学助教



石黒 大輔

Daisuke Ishiguro

1984年：広島県生まれ
2008年：京都工芸繊維大学卒業
2010年：京都工芸繊維大学大学院修了
2010年：KINO architects

●tetto



安原 幹

Motoki Yasuhara

1972年：大阪府生まれ
1996年：東京大学工学部建築学科卒業
1998年：東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了
1998～2007年：山本理顕設計工場
2008年：SALHAUS共同設立
現在、東京理科大学准教授



日野 雅司

Masashi Hino

1973年：兵庫県生まれ
1996年：東京大学工学部建築学科卒業
1998年：東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了
1998～2005年：山本理顕設計工場
2007～2010年：横浜国立大学建築都市スクール“Y-GSA”設計助手
2008年：SALHAUS共同設立
現在、東京理科大学工学部、千葉大学工学部、法政大学、武蔵野大学非常勤講師



柄澤 麻利

Mari Tochizawa

1974年：埼玉県生まれ
1997年：東京理科大学理工学部建築学科卒業
1999年：東京理科大学大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了
1999～2006年：山本理顕設計工場
2008年：SALHAUS共同設立
現在、東京理科大学工学部、昭和女子大学、東京電機大学、芝浦工業大学非常勤講師